

気温が乱高下していますが、春は間近です。3月は駒井家住宅と4月はヴォーリズ六甲山荘の公開が始まります。

お知らせ

- ・駒井家住宅公開開始 3月4日(金)
- ・ヴォーリズ六甲山荘作業 3月5日(土)12日(土)21日(月・祝)31日(木)
- ・町並み研究会 3月18日(金)~19日(土)天神崎、黒江、湯浅
- ・歴史的建築物研究会再調査 3月26日(土) 西宮市夙川地区
- ・ヴォーリズ六甲山荘公開開始 4月2日(土)
- ・建物の保存を考える in Tokyo 4月9日(土) 旧前田侯爵邸、日本民藝館
- ・和のこもの展 4月20日(水)21日(木) 草志舎
- ・正司邸庭園一般公開(ナショナル・ガーデンズ)5月10日(火) 正司泰一郎邸

予告1

3月の歴史的建築物研究会 ~ 西宮市夙川地区

3月の歴史的建築物研究会は西宮市の夙川地区をまわります。そろそろ桜の便りも届くころ、花の名所を歩きましょう。

日時 2011年3月26日(土) 午前11時 阪急電車夙川駅改札口集合

参加費 会員1,000円 一般2,000円(昼食代は別途自己負担)

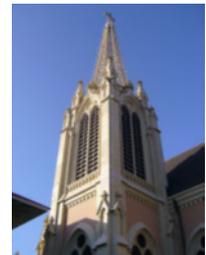
訪問先 カトリック夙川教会、山本清記念館等

昼食 カフェダイニング・オリーブ

定員 30名

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。

カトリック夙川教会



ご報告1 タイ交流旅行 2月6日(日)~10日(木)~12日(土)

この交流旅行はタイ・チェンマイYMCAが行っている環境・農業教育プログラムの実施校を訪問するものです。アメニティ2000協会はこのプログラムに支援金を送っており、ほぼ毎年子供たちに会いにタイを訪問しています。今年もいつもながらの大歓迎を受けました。今年訪問したのはタイ北部の学校です、生徒はすべて少数民族のラフ族でした。貧しいけれど自分たちの文化を大事にして生活している様子をみせてくれました。私たちのささやかな支援が役立っていることが実感できて、うれしかったです。



【コラム】

タイの小学校を訪ねて

細木 ゆきえ

6年前の第2回交流旅行に参加して以来、2度目のタイである。関西空港からバンコクまで6時間、国内線に乗り継ぎ1時間でチェンマイ空港へ。今回も同様、チェンマイ空港の到着口を出たところから、寝るとき以外はすべてYMCAスタッフの皆さんにお世話になりっぱなしであった。

この交流旅行の醍醐味は、何と言っても子供たちから熱烈的な歓迎を受けるところにある。はじめて参加する人なら誰しも驚き、あるいは戸惑ってしまうほどの歓迎ぶり。それぞれの学校で子供たちによる歌や踊り、民族衣装をまとうてのおもてなしを受けた。チェンマイからさらに北へ車で約3時間、ミャンマーやラオスとの国境近くに位置するチェンライの山中では、もしかしたら外国人を見るのも初めてかもしれない。しげしげと見つめてくる子供たちのまなざしはとて愛くるしい。

訪問した2校のうちのパン・マ・カド校については、6年前に訪れたときの写真と改めて比較すると、校舎やソーラーシステムなどの設備が増え、おそろいの制服や先生の人数も増えるなど、確実に子供たちの学ぶ環境が整いつつあることを実感した。ひとりの若い男の先生から「こんにちは」と話しかけられ、どこで日本語を勉強したか尋ねると、「X-Japan」「YOSHIKI」という答えが返ってきたのには驚いた。映画やアニメ、音楽などから日本に興味をもち、このような北部の山村地域からもいつか日本にやってくる若者のひとりやふたりはいるだろうか。

私たちを歓迎してくださった子供たちや先生方の様子からアメニティ2000協会に対する期待の大きさを感じた旅であった。

予告2

建物の保存を考える in Tokyo

例年の東京での企画ですが、今年は開館75周年をむかえる日本民藝館と旧前田侯爵邸を訪問します。

日時 2011年4月9日(土)

集合 午後1時 京王井の頭線 駒場東大前駅東口(渋谷寄り)

見学先 旧前田侯爵邸洋館(1929年築)、日本民藝館(1936年築)、旧柳宗悦邸
日本民藝館では「開館75周年記念・日本民藝館名作展」を開催中です。

参加費 会員1,500円 一般2,000円

定員 30名



日本民藝館

なお時間のある方は昼食をご一緒しましょう。その場合の集合は午前11時半となります。詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。

連載

私たちの先駆者(第3回)

清水 彬久

外山八郎<「天神崎を大切にする会」創設者> その2

外山八郎氏(1913~1996)は、天神崎の保存を提唱し先頭になって推進した人物です。彼なくして今の天神崎はないと言ってよいでしょう。大岡昇平の自伝小説「少年」に、由緒のある外山家のことを紹介するくだりがあります。「外山の郷里は和歌山県田辺(注・本当は南部)だったが、祖父は長岡藩士、日銀の初代理事、衆議院議員外山脩造である。彼の父は故あって廃嫡され、田辺へ隠棲していた。長男夫婦に買与えたのが、中落合(注・東京都新宿区)の家だったのである。この外山というのは、兄である五郎氏のことで、青山学院中等部で大岡氏の一年先輩にあたり、親友関係にありました。五郎氏は後に牧師となる人で、この兄の影響もあり高校時代に受洗し熱心なキリスト者となります。

1937(昭和12)年東京大学法学部を卒業し一般企業に一度就職しますが、その直後に肺結核の病魔が襲い、長い10年に亘る療養生活を強いられました。その時期のことを「つらい年月でしたが、人の苦しみができるようになりました」と述べ、彼の忍耐と世を見通す心が養われ、その後の人生の精神的な支柱を築き上げたのでしょう。その間信仰生活をもち続け、座右の書にしていたのが、後に翻訳出版する宗教改革者カルヴァンの「ジュネーブ教会信仰問答」でした。1948(昭和23)年には県立田辺高校の教師として社会復帰をとげ、その後田辺商業高校を定年退職するまでの30年間教師を何にも代えがたい天職として奉職全うしたのです。

このようにして育まれた人生観が、1974(昭和49)年に起きた天神崎の開発計画が行政の力で中止できないのであれば、自ら防波堤になるという覚悟と信念を生んだのでしょう。それは、「神様から『この荷物をしょってけ』と命じられたと信じて、立ち上がることにしたのです」という証言からも、実現できる確信があってなされた行動ではなく、正に使命感をもってナショナル・トラスト運動に踏み出したのです。こうして開始した運動の中でも一番苦しい時期は、1978(昭和53)年からの岬中央部購入資金40百万円近くの手当てに奔走した時でしょう。この金額は、とても募金だけで賄うことができずメンバーの負担にかかってきました。そのため彼自身も退職金を取崩すだけでなく自宅担保に融資を受けて資金を工面したのです。

この運動の終始一貫した理念は対立姿勢でなく啓蒙を基本としています。会の名称が『守る会』でなく『大切にする会』で分かるように、「天神崎の自然」は特定の人のためでなく、全ての人のための未来永劫の財産であるということを意味しているのです。それを彼はこう述べています。「天神崎の自然保護運動が、筆舌につくせぬ苦難の中で、息長くもちこたえここまでこぎつけてこられたのは、偉大な教師である生きた自然を、何としても後々の子らに残そうと願う、教育的主張に対する幅広い共感のおかげだと信じている。」

ご報告2 歴史的建築物研究会再調査 2月19日(土) 神戸市東灘区

皮切りに清水栄二の作品を二つ、御影公会堂と旧高嶋邸を訪問しました。公会堂は今も市民に活用されており、旧高嶋邸は甲南漬資料館として多くの人を迎えています。続いて灘の酒造蔵を訪れました。泉勇之助商店では手作業の酒造りの話を伺い、銀行とも見紛う菊正宗の洋館は今でも本社として使われています。けれど前回の調査ではしゃれた洋間のあった木村酒造は今は閉鎖されており、日本酒業界の不振が実感されました。



旧高嶋邸

お薦めの本

『聞き書き 兵庫の食事』日本の食生活全集 第28巻

芦田 雅子

ご紹介するのは昭和初期の兵庫県下のちゃぶ台に並んでいたおかずがわかる一冊、編集出版は財団法人の農山魚村文化協会というカワイイ団体ですが、すべて台所を預かる主婦、つまり現場からの聞き書きで構成されています。

まず最初は神戸、ずばりサブタイトルは「異国料理の似合う街」、登場するのは葺合、脇浜に暮らす女学生の弁当、麦ご飯の上に白米を載せる「屋根ふき」というスタイル、城崎温泉の柳行李仕立てのちょっとかわいい弁当箱は当時の流行だったとか、続けて、春夏秋冬、ハレ、法事というように食の歳時記が、写真や挿絵と一緒に登場します。

再確認することができ映画評論家の淀川長治さん宅、茶の間には芝居小屋で買ってきた各種おやつ、ラムネやぼんぼん菓子があり、取り寄せたサンドイッチを頬張りながら映画談義が繰り広げられたとあります。

その他、明石に代表される瀬戸内、龍野あたりの播州平野、鳥取、岡山の県境にある播磨山地、日本海に面した但馬海岸、杜氏の故郷、丹波そして淡路のそれぞれの基本食が一部レシピもついて登場、もちろん旬に入ったイカナゴも入っています。これは昔、食べたことがある……読みながらセピア色になっていた味覚をました。ちなみにこのシリーズ、各県版があります。
<次回は黒田睦子さんにお願いします>

おしゃべりアラカルト

舞子・塩屋地区をまわって

金川 玲子

私は以前、塩屋の友人宅に招かれ、ランチをいただきながら窓から見た、太陽の光がキラキラと反射する眩い海の景色が焼き付いて離れない。友人は、「この景色が欲しかったの。」と、この地に移り住んで来た。

人が自分の住居を建てる時、何を大切にするかを考えるが、この舞子・塩屋地区は、特に外の景色をどう取り入れるかというポイントはかなり高かったらと思う。

今回の研究会は、この立地条件で、和風、東洋、西洋の各々の文化をどのように取り入れて日本の風土に合うように建築されたのか、とても興味深く廻らせていただきました。特に旧武藤山治邸は、建築中の様子を見学させていただいたので、あの骨組がどう生かされ、仕上げられていったのかが本当に楽しみでした。

私はこの会への参加は未だ数回目ですが、参加させて

いただく度にボリュームたっぷりて内容が充実しているため、帰りの途中では心地よい疲れと満腹の満足感を味わいながら余韻に浸ることができ、幹事の方々に感謝の気持ちでいっぱいになります。参加されている皆様のバイタリティーや熱心さにも感動しております。

神戸に住んで20年になりますが、こんな身近な所に、多くの設計者や住まい手が思いをこめてつくられた建物を長く長く残していくことを切に願いながら、これからも参加させていただけたらと思います。

<歴史的建築物研究会 1月22日(土) 神戸市舞子、塩屋地区>



旧武藤山治邸

六甲山荘だより

2月の作業は17日(木)でした。前回のアイロン室に続いて、今回は管理人室の床下の点検をしました。2部屋ある和室の畳をあげて、湿気取りのために昨年床下に敷きつめた炭袋を取り出して、乾燥のために日光にあてました。六甲山荘の基礎は全面コンクリートが敷いてあります。これは昭和の初めには大変珍しいことですが、おかげで湿気のおおい六甲山上にありながら、建物の傷みが少ないのです。管理人室の場合も床板は弱っていましたが、基礎や根太はしっかりしていました。施主の小寺敬一さんの周到的な準備のおかげです。

3月の作業は5日(土) 12日(土) 21日(月・祝) 31日(木)を予定しています。それぞれに作業をしてくださる方と炊事担当を募集しています。どうぞご参加ください。

アメニティ 2000 協会協賛

島の音楽会～うた 島めぐり

島の音楽会スペシャルコンサートは2月26日(土)に兵庫県芸術文化センターで開かれ、2000人収容の大ホールが満員の盛況でした。出演した離島の子供たちは元気いっぱいに島の紹介、音楽劇のセリフをこなし、最後に「椰子の実」を合唱しました。畑儀文さんは司会、独唱、指揮と大車輪の活躍で、このプロジェクトを引っ張ってこられた情熱がそのまま現れた舞台でした。



駒井家住宅ニュース

2月22日(火)庭にそびえる大王松の剪定をしました。大王松というのは北アメリカ原産の松で、日本の松にくらべてとにかく大きい。駒井家住宅の屋根より高くそびえ、松葉の長さは25センチ以上、松ぼっくりも長さが20センチくらいもあります。朝から4人の植木屋さんが来て、てっぺんを抑える、隣家側の枝を落とす、全体に枝葉を整理する、という作業を一日がかりで行いました。切り落とした枝葉はトラック一杯になるほどで、おかげで全体にとてもスッキリしました。3月の公開を前にして、散髪をすませたという感じです。

3月4日(金)から公開再開です。どうぞスタッフとしてのご参加お待ちしております。



私たちの手でヴォーリス六甲山荘を育てましょう!

ヴォーリス六甲山荘募金報告(目標金額2000万円)

1月の募金状況 55,000円<累計8,934,998円(612名から1,578口)>
会員45,000円(8名から9口)<累計4,690,670円(431名から934口)>
団体会員5,000円(1名から1口)
一般5,000円<累計3,328,745円(199名から663口)>
一般団体 0円<累計81,000円(5団体から16口)>
その他 0円<累計832,883円>

振込口座・郵便局 00950-5-36168 アメニティ2000協会

予告の予告 和のこもの展

毎年大好評の和のこもの展の日程がきました。あしやくローバーのメンバーによる色使いのセンス抜群のこものが並びます。ご期待ください。

月日 2011年4月20日(水)21日(木)
場所 草志舎

予告の予告 正司邸庭園一般公開

会員の正司泰一郎さんの庭園を一般公開するイベントが開かれます。これは庭園を有料で公開してその収益を寄付するという企画で、英国ではナショナル・ガーデンズ・スキームとして定着しています。

正司邸は国登録文化財の洋館で、広い敷地はすてきなお庭になっています。当日の運営はアメニティ2000協会が担当し、収益は当協会に寄付されます。詳しくは次号でご案内いたします。楽しみにお待ちしております。

月日 2011年5月10日(火)

アメニティ・レポートの原稿募集

5月末の総会にあわせて発行するアメニティ・レポート2010の「会員の声」への原稿を募集します。題は自由、日頃考えていること、印象に残ったこと、面白い経験などなど、好きなこととお好きなように書いて、お寄せください。

字数：400字前後

締切り：3月末

皆さまの「お声」を楽しみにお待ちしております。

スタッフ募集 マーマレード作り

前回の越智さん(大三島)のハッサク・マーマレードに続き今回は中嶋さん(熊本)の甘夏が材料です。できたマーマレードは六甲山荘の喫茶で使用したり販売したりします。みんなでおしゃべりしながら楽しく作りましょう。ご参加できる方はご連絡ください。

日時 3月28日(月)午後1時 場所 草志舎
持ち物 包丁、エプロン